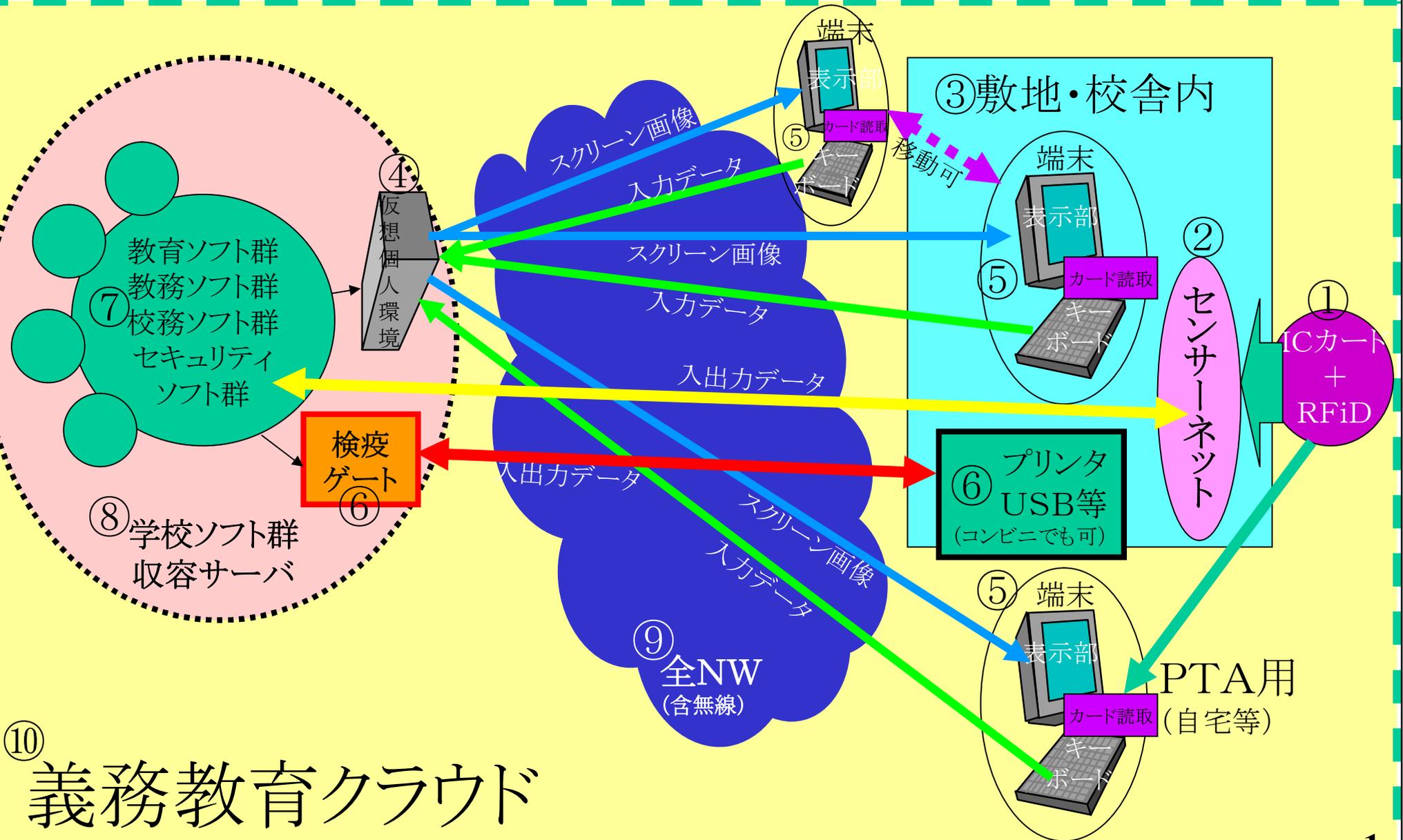


義務教育クラウドの構築



義務教育クラウド概要

- ① 使用対象者はID認証に「ICカード+RFiD」を使用
- ② センサーネットは監視カメラ、人感センサ、ICカード・RFiD読取器、電気・水道メータ類、防災関係機器類等で構成
- ③ 学校敷地内はオープン&セキュア(見えないゲート)
- ④ 端末使用者は「永遠のビギナ」と考え、個人作業環境はすべてサーバ側に設置
- ⑤ ④に伴い端末側はネットワーク(種別問わず)経由のシンクライアント化
学校側での煩雑なネット設定・端末設定を解消
端末使用時の本人認証には①を使用
- ⑥ セキュリティ・利便性の観点からプリンタ・USB等の周辺機器は検疫ゲート経由で接続
- ⑦ 学校運営・セキュリティに関わるソフトはすべてパッケージとしSaaS化して運用する
特にインタラクティブなシステムについては全国共通化、セキュリティ・校内安全/倫理については強化
- ⑧ ④・⑥ならびに⑦を収容するサーバ・ソフトウェアはクラウド化&アウトソーシング
学校側での煩雑は保守・運用は無しとでき、全国共通レベルを保つ
(学校毎にカスタマイズが必要なので、学校クラウドと呼称する また、インフラのみならず産業界からのサポートも重要)
- ⑨ サーバと端末間のネットワークは種別を問わず使用可能とする
イントラネットは必要性が無い限り設置しない→どこからでも接続可能は必須条件
- ⑩ 上記内容をすべて満足するシステムを義務教育クラウドと定義し、国家が標準仕様を提供することが必要(全体構築が不可欠でシステム全体での競争が向上を促す)